

② 市民社会と国家

… [1] (18・19C、独) の思想 (『[2]現象学』)

(1) 歴史発展の法則

1 [3]法

… 全てのものは、一つの定立 (正 テーゼ) に対して、
それを否定する別の定立 (反 アンチテーゼ) があらわれ、
両者の要素を保存しつつ両者を否定して、
より高い次元 (合 ジンテーゼ) に発展する (止揚 アウフヘーベン)

2 歴史観

a [4]の理念… 歴史とは、自由の理念が弁証法的に自己展開する場

b [5]精神 (絶対精神) … 歴史の原動力 → 英雄の行動で現実化

(2) 個人と国家の関わり (『[6]の哲学』)

1 [7]倫… 道徳 (個人の主観的確信) と法 (社会の客観的ルール) を統合

正 : [8] + 面 = 愛で結合 (全体性) - 面 = 個人の独立なし

反 : [9]社会 + 面 = 個人の独立 (個別性) - 面 = 欲望の体系

… 自由放任的な資本主義が、貧富の差を拡大

2 人倫の三段階

→ 合 : [10] = 人倫の最高形態

∵ 全体と個別の長所を調和

3 「[11]的なものは現実的、現実的なものは[11]的」

… 現実的な観念論 比 : カント哲学は非現実的な観念論

③ [12]主義… 産業革命後の英

(1) [13] (18・19C)

1 量的功利主義

a 「最大[14]の最大[14]」

… より多くの人のより大きな快樂で、より幸福な社会になる

b 快樂は計算可能 ex. GDP

2 外的制裁により利己心を抑制 (『道徳および律法の原理序論』)

(2) [15] (J. S. ミル) (19C)

1 質的功利主義

a 「満足した[16]であるよりも、不満足な[16]である方がよい。

満足した[16]であるよりも、不満足な[16]である方がよい」

b 快樂は計算できない

2 内的制裁を重視 (『功利主義論』、『自由論』)

… 良心やイエスの[17]律 (隣人愛) を強調

MEMO etc.